

中緬石油パイプラインと中国の石油輸送ルート

2009年3月26日、ミャンマーの首都ネピドーにおいて、中国とミャンマーは、「ミャンマー中緬石油・天然ガスパイプライン建設に関する政府間協定」等の協定に調印した。また、中国は2009年2月17日に中露間の原油輸送、融資および長期原油貿易に契約した。中国の石油輸送ルートをめぐる、大きな動きが出ている。

中緬石油パイプラインの輸送能力は第1期が年間2,000万トン、天然ガスパイプラインの能力は年間100億 m^3 である。天然ガスの供給地はミャンマー沖のA1、A3ブロックからであるが、石油の供給地はミャンマーではなく、これまでマラッカ海峡経由の海上ルートで輸送してきた中東とアフリカの原油の一部をミャンマーに陸揚げし、中緬石油パイプラインによって中国へ輸送することになる。

マラッカ海峡は、中国の石油輸送ルートにおいて重要な位置を占めている。中国は1990年代後半に原油純輸入国に転じて以来、原油輸入量が年々増えており、原油の対外依存度は上昇している。2008年の原油対外依存度は48%であったが、2020年には60%に達すると予想されている¹。一方、2007年の中国の輸入原油の中で、中東原油が45%、アフリカ原油が33%を占め、いずれもマラッカ海峡を経由して輸入されている。中国は、マラッカ海峡に「過剰に依存する」ことは石油の安全供給にとってマイナスであることを懸念している。

マラッカ海峡には、中国の原油輸送ルートの安全に脅威をもたらす要素が多い。同海峡は狭隘である上、通過する船舶が多い。また、海賊事件も多発している。さらに、マラッカ海峡における政治変数²が増えている。このような状況の中で、中国の輸入原油の約80%がリスクの大きいマラッカ海峡を経由することによって、中国の石油安全保障が脅かされる。

こうした懸念を解消するための対策としては、海上護衛力の強化と陸上輸送能力の強化などが挙げられる。しかし、マラッカ海峡について、中国はソマリア沖のように艦隊を派遣して護衛任務を行うことはしていないが、もし中国の艦隊がタンカー護衛のためマラッカ海峡に派遣されると、政治的対立が高まる可能性がある。一方、陸上輸送能力の強化については、既存の中国・カザフスタン原油パイプラインやロシア鉄道による原油輸入の拡

¹ http://www.cnstock.com/08chanye/2009-01/08/content_3985223_2.htm

² マラッカ海峡は、現在シンガポール、マレーシア、インドネシアの3国が共同管理しているが、アメリカがシンガポールに軍事基地を設けることになれば、それは同海峡がアメリカの軍事力の支配下に入ることを意味する。また、日本は台湾海峡を「周辺事態」の範囲に含めたが、中国は、日本が将来、マラッカ海峡に触手を延ばし、中国の海上石油ルートに影響を及ぼすことを懸念している。

大に加え、中露原油パイプライン、中緬原油パイプラインの敷設がある。

陸上ルート of 原油輸入量は、中国全体の輸入量から見るとまだまだ小さい。中国・カザフスタンパイプラインの輸送能力は年間 2,000 万トンに上るが、2008 年の実際の原油輸入量は 638 万トンに過ぎなかった。また、2007 年にシベリア鉄道から満州里経由で輸入された原油は 912.7 万トンであり、ロシアからの原油総輸入量の 62.8% を占めた³。なお、中露原油パイプラインによる輸入については、2011 年から 2030 年にかけての 20 年間で、総計 3 億トン、年間 1,500 万トンに上る原油が中国へ輸出される見込みである。

また、中国の西南地域について言えば、同地域の原油処理能力は 360 万トン、原油生産量は 18 万トン、実際の原油処理量は 237 万トンであり、石油製品の大部分を西北地域から調達している。同地域にとって、中緬原油パイプラインが敷設されると、石油製品の調達問題の解決が可能になる。

中国は、国内の石油需要を賄うため、供給源の確保に止まらず、輸送ルートについても重要視している。中国が中露、中カ、中緬石油パイプラインの建設を進めるのも、陸上輸送能力を強化してマラッカ海峡に対する過度の依存から脱却し、エネルギー安全保障能力を高めることが目的である。しかし、中緬石油パイプラインの建設は、原油の輸送コストやパイプライン敷設コストなど経済的な問題だけでなく、ミャンマーの政治的不安定、パイプラインの安全など様々なリスクがあり、唯一最善の選択とは言えないであろう。

(エイジウム研究所 主任研究員 柳 小正)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>

³ 満州里税関(「2008年10月中国原油輸入統計」)によると、2008年1～10月、満州里のロシア原油通関量は651.9万トンで、前年より14.5%減少した。